

地域ケア会議について

1. 地域ケア会議の概要

地域ケア会議とは、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた会議である。地域ケア会議には、①個別課題解決機能、②ネットワーク構築機能、③地域課題発見機能、④地域づくり・資源開発機能、⑤政策形成機能という5つの機能がある。神戸市では、平成27年から地域包括支援センターおよび区に地域ケア会議を設置している。区の地域ケア会議で出された意見・課題は市で集約し、市全体の取り組みにつなげていく。

また、平成27年度から全区に協議体（※）を設置し、資源開発等において、地域ケア会議と連動させてきた。（※協議体とは、生活支援・介護予防サービスの体制整備に向けて、地域の住民や事業者・NPO等の多様な主体が情報共有を行い、連携・協働による資源開発を推進する会議を指す。）

（参考）地域ケア会議参加者

- ・主催者（あんしんすこやかセンター、区）
- ・介護支援専門員、介護サービス事業者、保健医療関係者（医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師など）、民生委員、住民組織、ケースの当事者や家族（個別課題の場合）、その他必要に応じ、警察、消防、金融機関、地元商店街等

◇地域ケア会議実施回数

	27年度	28年度	29年度	30年度 (H30.12月末)
小学校区別開催状況 (市内全164校)	47校	63校 (累計74校)	109校 (累計124校)	109校 (累計141校)
地域包括支援 センター圏域	64センター	76センター	75センター	75センター
各区	2区	8区	9区	6区

2. 各区地域ケア会議で出された主な意見（平成29～30年12月末）

（1）認知症に関すること

①市民への啓発

地域の理解を高める、介護する家族への理解、早めのアプローチのため自分事として捉える機会をつくる等

②必要な支援

- ・金銭管理サービスや成年後見市長申し立てに時間を要するため、決定までの間の金銭管理を行うしくみの検討
- ・認知症サポーター養成講座を小中学校の授業カリキュラムに組み込み、実施方法のマニュアル化等を検討
- ・「こども110番」の認知症版（たとえば「オレンジ110番」）の実施検討

（2）医療に関すること

- ① 専門職集団「8050チーム」の設置の検討（精神疾患等を有する社会的自立が難しい50歳代の子をもつ80歳代の親のケースを想定）
- ② 認知症以外の精神疾患の受診拒否と支援の体制作りと相談窓口の充実

（3）見守りに関すること

- ① 地域における見守り体制の充実の検討
自治会単位等で協力を得て若い世代も含めたサポーターの拡大の検討
- ② SOSを自ら発信できない独居等の人への支援策の検討

（4）地域問題に関すること

- ① ゴミ出しの時間、場所、分別ができない人への対応、ゴミ出しが困難な人への支援新体制づくりの検討
- ② 民間事業者、金融機関、スーパー等の生活にかかせない関係機関と医療福祉の機関とのネットワークの構築
- ③ 移動支援として、老人福祉施設など社会福祉法人の協力を得てのシステムづくりの検討
- ④ 世代間交流の促進の検討

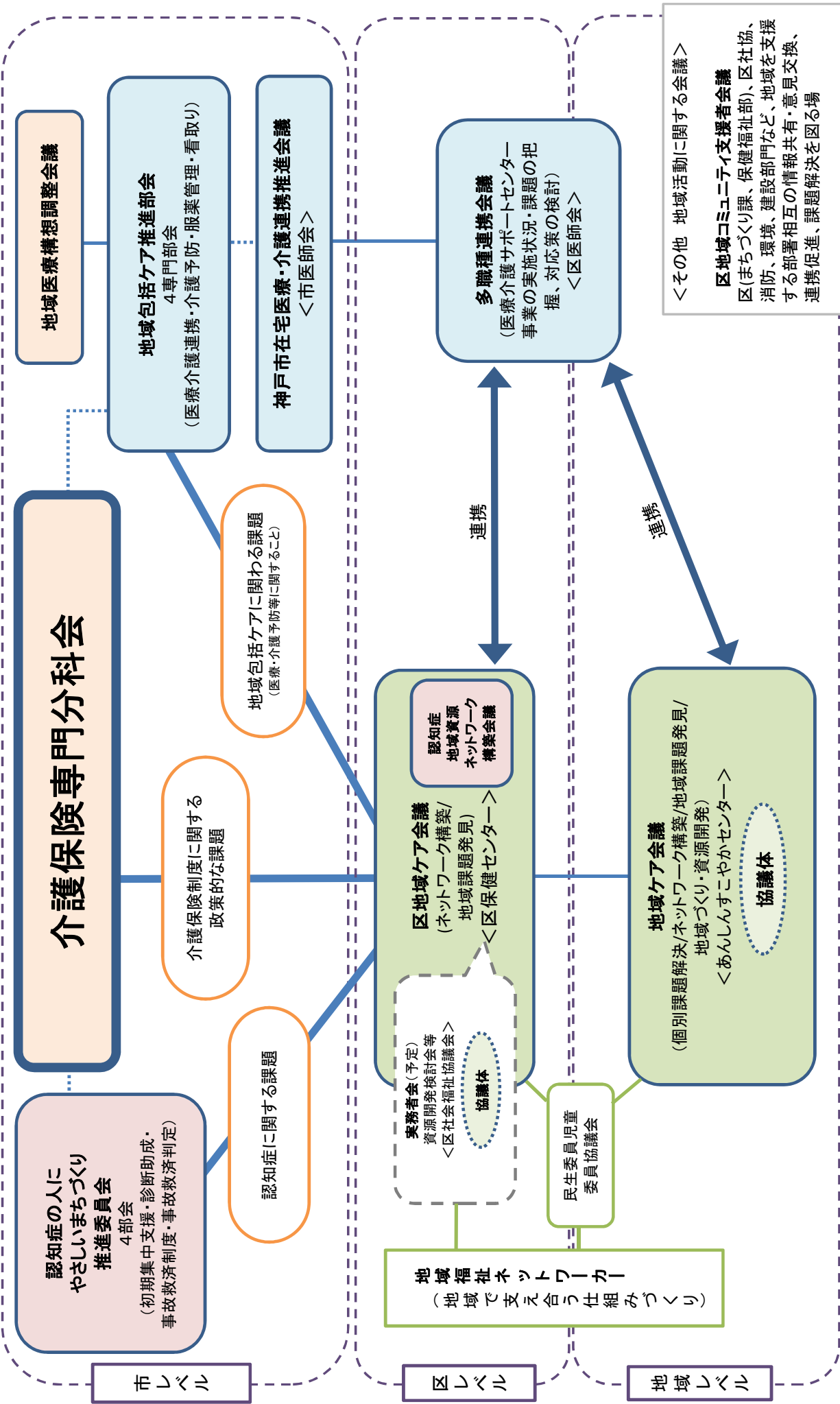
（5）地域の担い手に関すること

支援者の高齢化による担い手の不足の検討

（6）災害に関すること

- ① 災害直後の要支援者高齢者の日頃からの備え
- ② 防災と救急に備えた情報共有のあり方の検討

高齢者支援に係る連携会議(主なもの)



高齢者支援に係る連携会議（主なもの）

＜平成29年度第1回介護保険専門分科会資料＞

